

＜ もくじ ＞	
1. 2024年度定時総会・第23回大会開催のお知らせ	1
2. 第8回研究会合同イベント概要報告	2
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 研究会からの概要報告	4
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2024年度定時総会・第23回大会開催のお知らせ

2024年度の大会は、シニア社会学会の設立当時の目的を見定めながらも、人口減少・少子高齢化、デジタル化、AI技術の進展などの急激な時代の変化を背景として、具体的に学会員が地域で取り組んでいる活動に焦点を当てながら、多様な人々のつながりのあり方を「コミュニティ」の概念を軸に語り合うことを狙いとしています。久しぶりに会場で皆様とともに議論ができる機会になります。懇親会もありますので、ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 1) 開催日：2024年6月22日（土）
- 2) 時 間：総会10：30～12：00 大会13：00～16：30
- 3) 会 場：千葉商科大学市川キャンパス 7号館711教室（オンライン併用）

＜第Ⅰ部＞ 一般社団法人シニア社会学会総会（会員のみ）

- 2024年度定時総会・臨時理事会10：30～12：00

＜第Ⅱ部＞ 一般社団法人シニア社会学会第23回大会 13：00～16：30

- 大会テーマ：「だれ一人取り残さない社会の実現に向けて：共生型コミュニティの創出」（仮題）

(1) 基調講演：手塚明美（認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構 理事長、一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ代表理事）

☆講演タイトル：「共生型コミュニティ創出のための媒介組織の役割」（仮題）

(2) パネルディスカッション

＜テーマ＞：「だれ一人取り残さない社会の実現に向けて：共生型コミュニティの創出」

司会（趣旨説明とパネリスト紹介）：長田攻一（当学会理事）

＜パネリスト＞：

- ★ 吉竹 弘行：福島で地元学生たちと進める都市養蜂活用による地域活性化（会員、理事、千葉商科大学特任教授）
- ★ 齋藤 紀子：行政・企業・無償ボランティアによる対応からこぼれ落ちたニーズに応える有償ボランティア（仮）（会員、千葉商科大学準教授）
- ★ 青山 陽子：神田明神下地域における就労継続支援B型事業所の活動（仮）（会員、3B生活芸術研究所所長）

＜コメンテーター＞：手塚明美

- 懇親会：17：00～18：30 千葉商科大学市川キャンパス The University Dining
- 大会参加費：1,000円（学生無料）
- 懇親会費：4,000円

※ 総会・大会会場は、市川駅からバス、または京成本線国府台駅から徒歩10分

※ 申し込み方法についてはPeatix、振込、会場で支払いの3種で行います。

※ 詳細はプログラム完成次第詳細を記述して、案内地図とともにメールで会員に送付（一部の会員には郵送）いたします。また、ホームページでもお知らせします。

2. 第8回研究会合同イベント概要報告 「社会情報」研究会主催 「シニア世代のデジタル・リテラシー向上のための方策 ～若者世代・シニア世代による支援と課題」

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後初となる、第8回研究会合同イベントは社会情報研究会主催で、オンライン併用の対面形式で開催されました。

当日は、オンデマンド視聴も含め33名（会員26名、非会員7名）の参加がありました。

- 1) 日 時：2024年3月16日（土）14：00～16：00
- 2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェア ※ハイブリッド開催
- 3) テーマ：「シニア世代のデジタル・リテラシー向上のための方策
～若者世代・シニア世代による支援と課題」
- 4) 発表者：基調講演：八巻睦子（当学会運営委員、ユニアデックス株式会社）

パネリスト：

よろず隊（千葉商科大学人間社会学部人間社会学科学生を活動主体とした有償ボランティア団体）

田口 登（NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ市川運営委員他）

安田和紘（当学会理事・運営委員、元目白大学教授、あざみ野クラブで活動中）

総合司会：平井葉子（当学会理事）



袖井会長による開会挨拶



会場の様子

・基調講演：八巻睦子 「シニア世代がデジタル社会を生き抜くヒント

～高齢者のスマートフォン利用に関するヒアリング調査結果から～

我が国における情報通信技術の進化の歴史、デジタル社会と高齢者をめぐる動向、当学会社会情報研究会にて実施した高齢者のスマートフォン利用に関するヒアリング調査結果に基づきシニア世代におけるスマートフォン利用の現状と課題について報告しました。

ヒアリング調査から得られた支援策は以下の通りです。シニアが困った時に助けを求めるニーズが高いため、身近な相談窓口の整備が重要です。しかし、ICT知識を持った人材の確保が課題です。そのため、高度な対応と初歩的な相談を分離し、専門性の高い事業者と地域コミュニティやボランティアが担当することが考えられます。また、多くのシニアがスマートフォンの利便性を認識しており、次のステップとして楽しい体験を提供することが有効でしょう。

・パネルディスカッション

よろず隊 「スマートフォンを安全に使うために

～学生と高齢者の輪をとりもつスマートフォン～

高齢者向けスマホ教室では、具体的な問題やニーズが明らかになる一方、参加者はスマホを使いこなしたいという意欲が強いことが分かりました。高齢者のスマホ利用が社会参加に貢献できる可能性

を感じましたが、パスワード管理や写真フォルダーの利用に関する問題も浮上しました。また、様々なスマホ機種への対応やミドル世代への教育が必要だと感じました。

田口 登 「スマホ・パソコンの私のボランティア活動

～現在の変化の早い時代の中で私たちの年代の考え方について～

70代前後と70代後半ではスマホの利用状況が異なり、学習やセキュリティに課題があります。セキュリティやハードウェアのアップグレードも重要です。スマホを利用した認知予防や勉強にも注目すべきですが、安全性や違いを理解することが重要だと考えられます。

安田和紘 「スマホに囚われたくない」

現在、PC・携帯電話・固定電話を利用しています。スマホを使わない理由は不自由を感じていないことや移行手続きの面倒、経済的理由などがあります。しかし、企業や行政がスマホ保有を前提にし始めており、スマホを持たないと不利益を被る場面が増えています。今後、スマホを利用するには、使い分けの整理や費用負担、機種選定、Wi-Fiの環境確認などが必要です。

終了後のアンケートから、いくつかのご意見をご紹介します。

- *シニア世代の方がどのようなことに困っているのか、どのアプリを使っているのか知ることができました。比較的若者は、ゲーム、SNSをメインに使っているの、シニア世代と若者でスマホ使用の目的が違うのだと実感しました。(20歳代)
- *大学生の、若い人の活動の話が聞いて良かった。有償ボランティアとのことだった。高齢者のスマホ相談は「無料」というのが常識のようにになっているが、私は「有償」にすべき、といつも思っているため(そんな高額でなくても良い) 自宅を訪問して相談を受けるようだが、高齢者が若い人と話ができる、という点も魅力かもしれない、と感じた。(70歳代)
- *学生の活動が非常に参考になりました。(50歳代)
- *スマホに対しての否定的な話が多すぎて、スマホの利点を強く話しても受け入れられなさそうだった(20歳代)

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第159回 「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年4月24日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：袖井孝子(一般社団法人シニア社会学会会長)
- 3) テーマ：「日本の社会保障、ここが問題」
- 4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部(fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp)にご連絡ください。資料をお送りいたします。

※ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(2) 第96回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年4月25日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：読活一著書『コミュニティ学のススめところ定まればこころ定まる』一を読み直し、改めて「コミュニティ」を考える
- 4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します。

(3) 第51回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年4月26日(金) 17:30~19:30
- 2) 場 所：Zoomにて開催
- 3) テーマ：「シニア社会のリテラシー」研究会メンバーを招いて開催した、第50回の内容についての振り返り、フリートーキング ディスカッション。

◆詳細説明：第50回の内容についてフリー・ディスカッション。前回、2時間枠では意見交換が

十分ではなかったもので、特に、森島由紀子さんの資料『人生100年時代を生きるリテラシー』からそれぞれが関心のあるテーマを選んで、意見交換する予定です。

※ 参加希望の方は、当日の資料『人生100年時代を生きるリテラシー』とともにZoom招待状をお送りいたしますので、中村昌子(nakamurayoshiko6@gmail.com)までご連絡をお願いします。会員の皆さまは勿論、どなたでもご参加可能です。皆さまのご参加お待ちしております。

(4) 第43回「YNS やまぶき任意サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年4月27日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第一グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木眞澄、及びその他 YNS やまぶき任意後見、アワーズ
- 4) テーマ：認知症とともに生きる 「信託」と「任意後見」のことを考えていきます。

劇団 ^{びしょうざ}「B笑座」

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。人形劇、寸劇、その他劇団員募集しています。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄(mme_masumi@yahoo.co.jp)迄お願い致します。

4. 研究会からの概要報告

(1) 第95回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年3月21日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) レクチャー：濱口座長
- 4) テーマ：老若共同参画社会という考え方

レクチャーは、配付のレジュメに沿って、5つの観点から論じられた。

1つ目は、「おばあさん仮説」とのテーマで、人類は10万年昔から、共同で問題を解決する能力こそホモサピエンス生き残り戦略であり、老若の役割分担は昨日今日の問題ではなく、人類発展史に関わる事柄であったこと。2つ目は、「人間の生存にとって古くて新しい6つの領域」ということで、子どもを産み育てる、たべ物を獲得し保存する、場所を移動し情報を取得伝達する、健康を維持改善する、住まい環境を維持改善する、ものを想像し改善するという、共同にまつわる能力発揮は人類が人類として存続するための基本的な能力発揮の場面である。3つ目は、「老若共同参画社会のタイミング」ということで、グローバリゼーションは若い世代が奮闘し頑張りけん引したが、それ以外の世代の経験も世界に発揮されて今日の経済関係、政治や芸術学術などの諸分野が存続されている。このような関係性を正視していくことが社会関係を安定させるために必要であること。4つ目は、「世代継承の場面」ということで、ILO条約及び諸外国の年次有給休暇制度に関する状況図を用いて、世代継承の有効性を論じられた。5つ目の「老若共同参画社会基本法の構想」については、老若共同参画社会の概念に触れ、この関係を安定的かつ堅実に維持発展させるために、既存の高齢社会関連法の現代版として、あらたに老若共同参画社会基本法を提唱したが、この提案を今日の視点から検討すると、再度この構想を基本から再考する必要があることが分かり、提案者として納得できる論点整理をする必要を気づかされたと述べられた。レクチャー終了後、活発な意見交換が行なわれた。

(島村健次郎 記)

(2) 第42回「YNSやまぶき任意サポート会」の報告

- 1) 日 時：2024年3月23日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第一グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

劇団 ^{びしょうざ}「B笑座」

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom 参加者もできます。（鈴木眞澄 記）

(3) 第158回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2024年3月27日（水） 18:00~20:00
- 2) 報告者：姜守香（東京大学院人文社会研究科 修士1年生）
- 3) テーマ：「日・韓男性高齢者の配偶者ケア経験と認識比較研究」
- 4) 参加者：13名

本研究は、配偶者へのケアを行う男性高齢者の日韓比較を通して、韓国の男性高齢ケアラーのケア文化および認識を明らかにすることを目的とする。対象者は、韓国6人、日本5人の男性高齢者で、ケア提供期間が1年以上あり、公的介護サービスを利用している者を対象にインタビューを行った。

分析結果、日本と韓国の男性高齢者のケア経験には共通点がありつつも、それぞれの文化や制度の違いによって異なる側面が明らかになった。両国の男性高齢者にとって、妻にケアを提供するという新しい役割が必要であった。特に韓国では、妻や子供への愛情と自己犠牲がより強くみられ、その裏には子供の負担にはなりたくないという気持ちが読み取れた。一方、ケアを受け入れる過程では、男性高齢者たちは肉体的な苦痛や家事労働などの負担に直面していた。ケア技術の不足による困難もあるが、時間と共に適応していったが、心理的な面では不安が残り、孤立感が増していた。日本と韓国では、孤立の要因やその影響にも違いがある。愛情や思いやりを重んじる韓国文化と、他人に迷惑をかけたくない日本文化が、それぞれの男性高齢者たちの孤立に影響している。両国の文化や制度の違いが、男性高齢者のケア経験に影響を与えていた。ケアは社会の文化や価値観に基づくものであることが明らかになった。（姜守香 記）

(4) 第50回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年3月29日（金） 17:30~19:30
- 2) 報告者：「シニア社会のリテラシー」研究会から安田和紘さん、島村健次郎さん、大下勝巳さん、森嶋由紀子さんがゲストスピーカーとして参加。
- 3) タイトル：2023年に研究会活動の成果としてまとめられた小冊子「わたしたちのシニアライフ」～人生を駆け抜けようとしている今、考えていること～の内容解説と、「人生100年時代を生きるリテラシー」について。
- 4) 場 所：Zoomにて開催

詳細説明：2023年、「シニア社会のリテラシー」研究会では、研究会活動の成果の一端を、『私たちのシニアライフ』～人生を駆け抜けようとしている今、考えていること～の題目で小冊子にまとめられました。この冊子を題材に、登場するメンバーでもある4名の皆さんにご参加いただきました。前半は、島村さんが先日200回を迎えた歴史と研究会名称の変遷について、続いて、安田さんがパワポ資料で「幸福な老後への知恵」について、研究会メンバー「隣の人」の多様な生き方、過ごし方を紹介され、そこから読み取り抽出された問題点についてお話をされました。問題点：1. 人生100年時代、20年～30年後の健康問題、経済問題、人間関係への不安 2. 仕事人間としての目標、地位、仲間の喪失＝心の空白と再構築 3. 自由を手にしたもののやりたいことがわからない。 4. 社会のニーズに今の自分で応えられるかの疑問 次に、大下さんが「川崎都民」から「川崎市民」へと題して「企業戦士・会社人間が40歳で父親学級に参加し、地縁社会の一員になった」という実体験をユーモアたっぷり＆味のある口調でご披露くださいました。傘寿を迎えても尚、瑞々く、正に私たち次の世代が目指したいロールモデルと言える「隣の人」のお話でした。最後に森嶋さんが、2月の「シニア社会のリテラシー」研究会で発表された資料『人生100年時代を生きるリテラシー』を使って、マクロの視点からお話しいただきました。今回はこの森嶋様の資料を元に、深掘りし、意見交換する予定です。（中村昌子 記）

(5) 第67回「災害と地域社会」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2024年4月10日（水）18:00~20:00

- 2) 会 場：早稲田大学26号館1101室（オンライン併用）
- 3) テーマ：「早稲田大学危機管理研究所」と「災害と地域社会」との2024年度の連携方法の相談、および能登半島地震についての情報共有および支援の可能性について
- 4) 報告者：① 野坂真（会員、青森公立大学准教授）：「2007年能登半島地震後の地域産業の復興から見る2024年能登半島地震」
 ② 中塚健也（石川県戦略広報監）：「石川県創造的復興プラン」と県の取組
- 5) 報告概要と早稲田の研究会との連携についての相談内容

最初に、野坂真会員が、2007年の能登半島地震調査の概要と輪島のその後の復興過程での塗師と職人の伝統的な関係、復興に向けての思いや意識のズレ、2024年の地震および今後の復興における調査研究の着眼点についての報告があった。続いて、中塚健也氏（石川県戦略広報監）から、「石川県創造的復興プラン」の概要が報告された。その基本方針は、①被災者住民・事業者の声を反映させる、②過去の教訓に基づき能登の伝統ブランドを活かした「創造的復興」、③地域の課題解決のモデルになるような能登らしいしなやかな復興を目指す、というもの。具体的に被災地やその他の地域ごとに住民や事業者の声を収集する仕組みを作り上げているという。

被災地域住民の声を具体的にどのように救い上げているのか、能登らしい復興の進め方などについて、参加者との質疑応答も活発に行われた。

今回は早稲田大学危機管理研究所の今年度第1回研究会であり、そのメンバーでシニア社会学会の「災害と地域社会」研究会メンバーでもある野坂氏から長田が招待を受け、両研究会で連携をしていく主旨で参加した。司会の危機管理研究所所長の浅川達人氏から、2024年度は、「少子高齢化（社会への緩慢なストレス）と災害（急激なストレス）という2種類のストレスにさらされた地域社会の課題」をテーマに、月1回のペースで研究会を開催していきたいという説明があり、能登半島地震の復興研究報告のみならず、他地域での研究や実践活動の報告をも歓迎したいという方針が確認された。長田からは、「災害と地域社会」研究会の立場からもその研究方針に沿って協力していきたいと述べ、研究会同士の連携の方針が確認された。「地域福祉」の実践的活動をしているシニア社会学会会員からの話も聞きたいとの意見もあった。（長田攻一 記）

5. 事務局からのお知らせとお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2024年5月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第297号の発行日は、2024年5月22日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、5月17日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
 ちよだプラットフォームスクウェア1037
 eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>